

THE JAPANESE GRAPHIC NEWS IS PUBLISHED  
MONTHLY BY THE NIPPON INFORMATION  
PLANNING CENTER Co.,Ltd.,

株式会社日本報道企画センター

〒530 ☎ 06-365-5571(代) グラフ日本10・11月号 1998年11月1日発行(毎月1回1日発行)

第27巻10号 通巻322号

# グラフ日本

HEISEI 10年  
**秋**  
10・11月号併号



☆シリーズ欄物語 《田舎橋》

☆シネマランド

①アサト・オズ・サイト

②フラコーズ・オズ・シヤツハイ

☆特集ニミュージカル 《アスパタツ・オズ・ラブ》劇団四季

☆特集ニミュージカル 《エルリツクコスモスの239時間》

☆《石仏の道》当野の野山に眠る石仏達

☆連載①威風堂々 《軍隊の町》



# 完璧なサポートでCADの最高技術とノウハウを

株式会社 シー・スリー

代表取締役社長 谷澤寿一氏

訪問者 宮内 洋

## 限りなく進化し続けるCAD

**宮内** 今あちらで皆さんがトレーニングされていたのが、いわゆるCADですか。

**谷澤** はい。CADと申しますのはご存じのようにコンピュータを使って物を設計するシステムなのですが、今は設計業界でもほとんどがCADを導入されています。

**宮内** CADの技術的な内容も、昔に比べるとだいぶ進歩したそうですね。

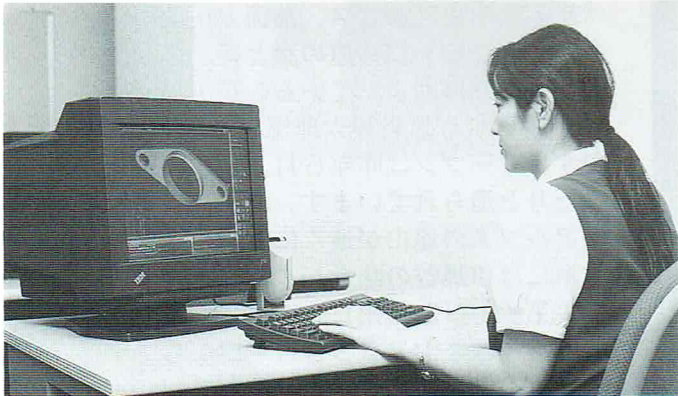
**谷澤** そうなのです。たとえばこのパンフレットの絵は車のブレーキ部分ですが、こういうものがすべて画面上で作れてしまいます。

**宮内** これは、すくリアルで立体的な絵ですねえ。いわゆるCGではないのですか。

**谷澤** 違います。これはCADで設計した



宮内さんに説明する谷澤社長（右）



同社スタッフによる最新CAD紹介

ブレーキ部分ですが、ここにはたとえばブレーキドラムがどんな素材で何ミリのものなのか、これを作る時の情報がすべて入っています。またこちらはアルミホイールですが、車本体を衝撃から守るために、ホイールはもともとある一定の衝撃を受けると割れたりキズが付く構造に作られていますでしょう。

**宮内** そういことですね。

**谷澤** それ、どのくらいの衝撃でどの程度のキズが付くのか、またそれぞれの素材による強度の違いなどをコンピュータの段階で自動的に計算することができます。

**宮内** そういうことは、従来は試作品などを作って実験して出していたのですよね。

**谷澤** そうです。ですからアルミホイール一つを作り上げるのにも非常に多くの手間と時間がかかったわけですが、こういったCA

コンピュータによる設計システム、CAD。今では平面から立体的なものまで自由に描けるようになり、さまざまなデータをインプットすることで、まさに画面上で一つの製品を作り上げてしまえるまで進歩しています。中でもその代表格が、アメリカSDRC社のCADシステム「IDEAS」です。本日はこのシステムの導入から管理、トレーニングまでトータルしてサポートして下さる、東京都港区の(株)シー・スリーを訪ねました。

Dを使いますと、コンピュータ上でそこまでシミュレーションしてしまえるのです。

**宮内** 試作や実験の必要なく、画面上で一つの製品を作り上げてしまえるわけですね。

**谷澤** おっしゃる通りです。

**宮内** これはもうすごい一言に尽きますが、そこまで進歩したCADを、設計者の方は今十分に使いこなされているのですか。

**谷澤** 当社はまさにそのために設立された



宮内さん



谷澤社長

## 技術指導とノウハウを

会社と言えませんが、設計者がいかにこのツールを自由に、効率的に使いこなせるかという部分に重点を置きまして、そのお手伝いをしようということでスタートしたので。

**宮内** 先ほどトレーニングされていた方は、CADを教える技術者なのですね。

**谷澤** ええ。彼らは、まずツールを使いこなすための研修をしているところです。

**宮内** そうしますと、彼らが技術をマスターして、今おっしゃったようなCADをお買い求めになられた方の会社などに出向き、説明をして教えるという形なのですか。

**谷澤** そうです。まず説明をして、設計者が今こういうものを設計したいというご要望があれば、代わって設計をしたりもします。

**宮内** その技術者の方々ですが、今こちらには何名くらいおられるのですか。

**谷澤** 現時点で在籍してトレーニングしているのは、四十名弱です。それも、技術者を派遣する業者さんにはたくさんありますが、私共は社内になんというテクノロジーを保有して、人はあくまで媒体であって、それ





対談中の谷澤社長（右）

に付けて会社としてのノウハウ、つまりソフトウェアを使いこなしたり、設計者のリクエストに応じてそれをコンピュータ上で表現するノウハウを提供しているわけです。

**宮内** その設計者の方達がCADそのものを十分に使いこなせるようになるまでには、どのくらいの期間がかかるのでしょうか。

**谷澤** それもエキスパートからA・B・Cランクまでいろいろ段階がありますが、最初お客様のリクエストに応じたものを作れるようになるまでには大体四カ月かかります。

**宮内** どんなことから始めるのですか。

**谷澤** 最初のトレーニングは、ソフトウェアのオペレーションです。要するにワープロが打てるようになるのと同じようなイメージですが、それが一カ月程度と今度はOJT、実地訓練として具体的に設計者のご要望を想定して、それをどうコンピュータで表現するかといったトレーニングをします。

**宮内** それが大変な作業でしょうね。

**谷澤** 長くて三カ月かかります。それで初めてお客様の仕事をお手伝いできたということになるわけですが、教えるという部分では当社ではほかにもセミナーも行っています。

**宮内** どういうセミナーですか。

**谷澤** ツールを使いたいという設計者にこのオフィスに来ていただき、定期的にトレーニングを受けてもらいます。当社では、そういうオープンなセミナーも行っています。

すべてをサポートする

**宮内** こちらが扱われているCADのツールですが、何という商品なのでしょう。

**谷澤** 「IDEAS」と申しまして、これを使いますと、今まで私がお話してまいりましたようなものをすべて集結させて、管理することができます。これはアメリカのSD

RC社という会社が作っているシステムなのですが、自動車メーカーのフォード社などでは実際にこのシステムを使って自動車設計をしています。日本では、(株)電通国際情報サービスが一番多く販売シェアを持っています。

**宮内** そうしますと、こちらはその会社の関連企業ということになるのですか。

**谷澤** 当社はそこ、トランス・コスモスと申しますコンピュータ・テクノロジーサービスの会社との合弁企業です。ですから、形態としてはベンダー様からシームレス、つなぎ目のない状態で、お客様に技術を定期的に提供するというのを特色にしています。

**宮内** 確かに、「IDEAS」を実際に販売されているベンダー企業からも出資を受け、尚かつ設計者がそのツールを十分に使いこなせるまでサポートして下さるのでしたら、お客様にすれば安心できるでしょうね。

**谷澤** 派遣業者ではなく、すべてをサポートできるというのが私共の一番の売りです。

**宮内** 会社は、いつ設立されたのですか。

**谷澤** 昨年の十月一日です。

**宮内** まだ新しいのですね。一年間頑張られて来て、手応えのほうはいかがですか。

**谷澤** おかげさまで、お客様の数は徐々に増えていますので手応えは上々です。

**宮内** 会社として、ご自身として、今後の展開は何か考えていらっしゃいますか。

**谷澤** 現在当社の社員は百名ですが、まずは今年度中に百五十名の組織体にしように計画しています。また、売り上げとしましては今のところ十五億円程度を目標にしています。

**宮内** こちらなら将来性も大いにありますし、その目標はすぐに達成できますよ。

**谷澤** ありがとうございます。とにかく私共は常にお客様のより良いパートナーでありたいと思っていますので、これからもそれをモットーに、一生懸命頑張りたいです。